

2012 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 活動記録



記 入 日 2012 年 12 月 9 日

実践団体名		社会福祉法人 大乘福社会 二之宮保育園	
連絡先		027-268-3620	
プランタイトル		自作絵本による防災教育	
	番号*	詳細	
1 プランの対象者	1,2	二之宮保育園・慈照幼稚園・二之宮学童クラブ	
2 対象災害種別	1,6		
3 プランの目的	1,4,6,8,9	絵本(地震)・紙芝居(地震・火災)の制作による防災意識の向上	
4 協力・連携先	1,3	学校法人 大乘学園 慈照幼稚園・二之宮保育園 保護者会	
5 プログラムの種類	1,14		
参考先進事例	活動年度	2010 年	団体名 和歌山県立新翔高等学校
	参考内容	防災紙芝居の制作と子文書による過去の地震の調査	

※ 赤枠は別紙「記入上の留意点」の各項目から選択し、記入してください。

地域特性に応じたアレンジ・工夫点	絵本や言葉などで大人から一方的に伝えられる防災意識ではなく、子ども自身が考えて作った防災絵本や紙芝居を使って、防災教育を行うこと。また、それを保護者に伝えて、一緒に楽しむこと。
実施スケジュール内容・成果*	<p>4 月 保育士の絵本チームを結成。 5 歳児さくら組で防災に関する話をして、絵本のストーリーを考える。</p> <p>6～7 月 さくら組の子どもたちが考えたストーリーを、子どもたち自身で絵を描いて作成していく。 保育士絵本チームもストーリーを再構成し独自の絵を描いていく。</p> <p>8 月 読売新聞の取材があり、8 月 25 日教育ルネッサンスの中で掲載。</p> <p>10 月 完成した絵に文字を入れて、大判用紙に印刷して読み聞かせに使用し始める。</p> <p>11 月 絵本及び紙芝居を製本。</p> <p>12 月 保護者への貸し出しを開始する。</p>
全体の反省・感想・課題	子ども達で作った絵本や紙芝居の読み聞かせをすると、通常の絵本等よりも親しみを感じるのか、楽しそうに集中して聞いている子どもが多く、防災のイメージや状況に合わせた対応の仕方を想像しやすいようであった。
今後の継続予定	とても効果があると感じたので、今後も防犯・防災・安全対策・園内のルールに関する紙芝居や絵本を子どもたちと一緒に作成していきたい。

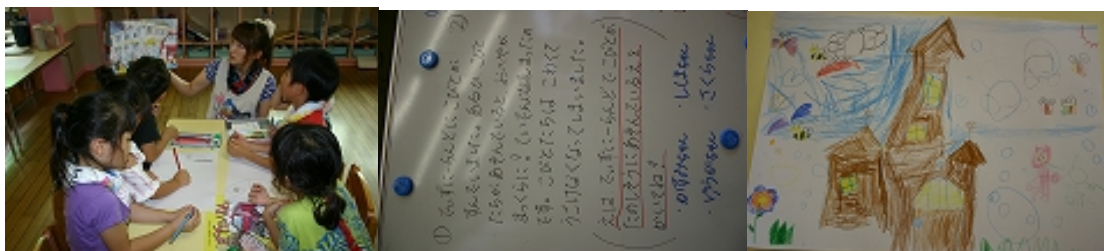
2012 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 活動記録



自由記述欄 (必要に応じ、具体的な活動記録を自由様式で補足添付することが可能です。頁数自由)

1. 絵本・紙芝居制作

ストーリーを考える作業は、15～16 人のグループを二つ作り、ブレインストーミング形式でさまざまな案を出し合った。子ども達は、ユニークなストーリーを話し合うのを楽しみながらも、地震や火災の場面をかなり具体的に想像していることが判った。



2. 絵本・紙芝居の読み聞かせ

作成に直接関わった子どもたちは、この絵は誰が描いた・・・とか、ストーリーの作成過程を思い出しているようで、とても楽しそうに聞いていた。

子ども達は「おもしろかった」「絵本ができてうれしい」などの感想を述べていた。

作成に関わっていない他のクラスの子どもたちや慈照幼稚園・学童クラブ(低学年)の子ども達も興味深く聞きながら、「なんでキョンシーが水族館に行くの・・・」などと笑いながら集中して聞いていた。ユニークなストーリーと、身近な人(子ども・保育士)が作った作品ということで親しみを感じるようであった。

読み聞かせに使用した保育士は、「市販の紙芝居や絵本よりも、子どもの反応がよい」、「防災意識を高める効果も大きいのではないか」等の感想がでていた。

保護者からは、「絵がかわいい」とか、「身近に感じる」などの感想をいただいた。

読み聞かせに使用した保育園児数 196 幼稚園児数 200 学童クラブ(低学年児童数)25



2012年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 活動記録



自由記述欄 (必要に応じ、具体的な活動記録を自由様式で補足添付することが可能です。頁数自由)

3. 読売新聞の掲載記事

2012年8月25日 くらし・教育欄 「教育ルネッサンス 生き抜く力7」に掲載された。

(21) **くらし 教育** 12版 2012年(平成24年)8月25日(土曜日)

前橋市の私立二芝宮保育園では、今年4月から紙芝居を使った防災教育に取り組み始めた。ただ、使う紙芝居は既製品ではない。5、6歳の年長組の園児たちと保育士たちが一緒にストーリーから考えた手作りの作品だ。

副園長の村中照世さん(43)が言う。「大人が自分たちの思いを押しつけるだけでは、子どもはついてこない。自分たちで作ったものだから、読んでほしい」と思ってもらいたいんです」

紙芝居作りは、「地震が起きたらどうなるのかな?」といった保育士たちの園児たちへの問いかけから始まる。

「地面にひびが入る」「何か落ちてくる」……中には、「遊園地のジェットコースターが落ちこちる」といった幼児ならではのユニークな答えも飛び出した。

保育士たちは、園児の答えや答えの背後にあるイメージを大切にしながら、紙芝居のストーリーを考え、自分の身を守るためにやるべきことや、園児の答えを織り込んでいく。

出来上がったのが四つの場面で構成された紙芝居。「小人が、遊園地に行ったら地震で停電になった」「キョウシ(中国のお化け)が水族館に行ったら、水槽が割れて水が噴き出した」……。各場面ごとに災害前後でどう風景が変わるのかを2枚1組の絵で表現し、状況に応じた避難方法をナレーションで語りかける。

同保育園では、10年以上前から毎月抜き打ちの避難訓練を行ってきた。東日本大震災が起きた昨年3月11日には、前橋市内は震度5強の激しい揺れに襲われたが、園児たちは机の下に隠れて身を守り、スムーズに園庭に避難できた。

しかし、災害は場所を選ばない。園側は、多様な状況に対応するために、「想像力が不可欠」と判断、目をつけたのが本の力だ。保有する絵本や紙芝居は計2000冊。これまでも読み聞かせ活動を通じて、大人の話や姿勢や防災の心構えを説いてきた。今度は、頭で覚えた知識に加え、自分が大震災で体験したことも思い出しながら、紙芝居を作り、想像力の幅を広げてもらおうというのだ。

紙芝居は8月末に完成し、9月から読み聞かせの教材として活用する予定だ。村中副園長が言う。「災害弱者でも、自分で身を守らなくてはならない時もある。体で覚え込ませるだけでなく、発達段階に応じた学びもできれば、生き抜く力はさらに伸びるはずだ」(小寺以作、写真も)

東日本大震災発生から1年3か月後の今年6月、聖徳大の原本憲子教授が関東の幼稚園や保育所77か所の教諭、保育士に防災教育の重点項目を尋ねたところ、「話を聞く態度を身に着けさせる」(38%)が最も多かった。以下、「視聴覚教材で防災を指導」(35%)、「防災頭巾のかぶり方を指導」(29%)、「避難訓練の実施」(25%)など。原本教授は「幼児は年齢によって発達に大きな開きがある」としたうえで、「発達に度合いに応じて生活の中で危険を意識させること話ができるれば、効果的な防災教育が可能だ」と話している。

「話聞く態度」重点に

「地震が起きたらどうなる?」。紙芝居作りは、保育士と園児の共同作業だ。7月10日、前橋市の二芝宮保育園で

紙芝居作りは、「地震が起きたらどうなるのかな?」といった保育士たちの園児たちへの問いかけから始まる。

「地面にひびが入る」「何か落ちてくる」……中には、「遊園地のジェットコースターが落ちこちる」といった幼児ならではのユニークな答えも飛び出した。

保育士たちは、園児の答えや答えの背後にあるイメージを大切にしながら、紙芝居のストーリーを考え、自分の身を守るためにやるべきことや、園児の答えを織り込んでいく。

出来上がったのが四つの場面

面で構成された紙芝居。「小人が、遊園地に行ったら地震で停電になった」「キョウシ(中国のお化け)が水族館に行ったら、水槽が割れて水が噴き出した」……。各場面ごとに災害前後でどう風景が変わるのかを2枚1組の絵で表現し、状況に応じた避難方法をナレーションで語りかける。

同保育園では、10年以上前から毎月抜き打ちの避難訓練を行ってきた。東日本大震災が起きた昨年3月11日には、前橋市内は震度5強の激しい揺れに襲われたが、園児たちは机の下に隠れて身を守り、スムーズに園庭に避難できた。

しかし、災害は場所を選ばない。園側は、多様な状況に対応するために、「想像力が不可欠」と判断、目をつけたのが本の力だ。保有する絵本や紙芝居は計2000冊。これまでも読み聞かせ活動を通じて、大人の話や姿勢や防災の心構えを説いてきた。今度は、頭で覚えた知識に加え、自分が大震災で体験したことも思い出しながら、紙芝居を作り、想像力の幅を広げてもらおうというのだ。

紙芝居は8月末に完成し、9月から読み聞かせの教材として活用する予定だ。村中副園長が言う。「災害弱者でも、自分で身を守らなくてはならない時もある。体で覚え込ませるだけでなく、発達段階に応じた学びもできれば、生き抜く力はさらに伸びるはずだ」(小寺以作、写真も)

紙芝居で防災イメージ

教育ルネッサンス 生き抜く力 7

No.1652





自由記述欄 (必要に応じ、具体的な活動記録を自由様式で補足添付することが可能です。頁数自由)

4. 絵本と紙芝居について(制作物)



絵本 ハードカバー15冊作成



紙芝居(リング式絵本)50部作成

5. 活動の継続

子どもと一緒に、園内で紙芝居や絵本を制作するのは、効果が高いと感じたので、今後もこの活動を継続していきたい。

活動記録 記入上の留意点



収支決算書		
[収入の部]		
項目	金額	備考
自己資金	50,800	
補助金等	0	
活動支援費	50,000	
収入・合計	100,800	
[支出の部]		
項目	金額	備考
印刷製本費	100,800	ハードカバー絵本15部・リング式絵本50部印刷費
支出・合計	100,800	

2012年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

活動記録 記入上の留意点



活動記録の作成にあたり、赤枠の項目について、以下を参照し該当番号を記入し、具体名称等を詳細欄に記入をお願いします。

「その他」を選択した場合は、詳細欄に具体内容を記入してください。

1. プランの対象者について (複数選択可)

	項目		項目		項目
1	幼児・保育園児・幼稚園児	8	教職員・保育士等	15	高齢者
2	小学生(低学年)	9	保護者・PTA	16	海外
3	小学生(高学年)	10	地域住民	17	防災関係者
4	中学生	11	社会人・一般	18	全ての人々
5	高校生	12	女性	19	その他 ()
6	大学生	13	障がい者		
7	外国人留学生	14	養護学校児童生徒		

2. 対象災害種別について

	項目		項目
1	地震	5	不審者・犯罪被害
2	津波	6	火災
3	水害	7	災害全般
4	火山噴火	8	その他 ()

3. プランの目的について

	項目		項目
1	遊び・楽しみながらの防災	6	防災に関する知識を深める
2	防災に役立つ資料・材料づくり	7	技術を身につける
3	災害に強い地域をつくる	8	防災意識を高める
4	災害を想定した訓練	9	災害対応能力の育成
5	災害を疑似体験	10	その他 ()

4. 協力連携先

	項目		項目
1	学校・教育関係	6	企業・産業関連の組合等
2	同窓会組織	7	ボランティア団体・NPO法人・NGO等
3	保護者・PTAの組織	8	職業、職能団体
4	地域組織	9	学術組織、学会等
5	国・地方公共団体等	10	その他 ()

5. プログラムの種類について (複数選択可)

	項目		項目		項目
1	イベント・行事	7	学校内クラブ活動	13	体験学習
2	講習会・学習会・ワークショップ	8	その他学校内の時間	14	読書・絵本・読み聞かせ
3	講演会・シンポジウム	9	校外学習・移動教室	15	演劇
4	総合的な学習の時間	10	家庭学習	16	避難・防災訓練
5	教科学習	11	出前授業	17	その他 ()
6	学級活動	12	研究		